

目次

[概要](#)

[背景説明](#)

[手順のトレース](#)

概要

この資料は Cisco インフォメーション・サーバー (CIS) SAP ビジネス ウェアハウス (SAPBW) アダプタに特定であるトラブルシューティング ツールを説明したものです。

背景説明

トレースおよびデバッグは SAPBW を含む問題を解決するために使用する異なるツールの 2 つです。

デバッグ プロセスは `log4j.properties` ファイル (`<BASE_Install> > CONF > サーバ`) とこの行を使用可能にするために完了します:

```
#log4j.logger.com.compositesw.cdms.ds.sapbw=DEBUG
```

この行は複合が SAPBW データ ソースに入れる API 呼び出しについての全面的な情報を得ます。

トレースはよりよく問題を理解できるように外部 SAPBW ソースから届く未加工のデータをキャプチャするために使用されます。トレースがアクティブなとき、データは SAPBW から出ると同時に記録されます。BW への各コールはデータが含まれているファイル システム (1 HTML、および 1 XML) のファイルのペアという結果に終わります。各 SAP システムが設定、メタデータ、または動作の点では変わることができるのでダイレクトアクセスがない環境のための問題を診断することをこの情報が必要とします。

手順のトレース

トレースを有効にするためにこれらのステップを完了して下さい:

1. CIS サーバがシャットダウンされることを確認して下さい。
2. ナビゲート し、本当に `sapbw.trace = 値はアプリケーション > dlm > app_ds_sapbw > CONF > product.properties` に設定 するためにファイルを編集します。

サーバ `log4j.properties` ファイルにまた有効になる SAPBW アダプタのためのデバッグロギングがある場合重要ではありません。設定はトレースのこの型に影響を与えません。オプションでトレースファイルのための別のディレクトリを規定するためにこの行を追加できます:

`sapbw.traceDir=<path>`

3. CIS を開始して下さい。
4. 問題を再生するため必要である最小ステップを実行して下さい。ファイルシステム (アプリケーション > dlm > app_ds_sapbw) に 4 つの新しいトレースファイルがあります。ディレクトリのリスト例はここにあります:
`sapbw.traceDir=<path>`
5. これらのファイルの 4 つをすべて単一 ZIP ファイル (か同等のアーカイブに) ZIP にし、合成サポートに電子メールで送って下さい。これらのファイルの使用によって、サポートチームは発生するものが再生の間に判別するために BW システムのセッションを検討できます。
6. 最初の 3 つのステップを繰り返し、サーバを以前の状態にリセットし、追加ロギングを停止するためにステップ 2 の `sapbw.trace=false` を設定して下さい。

注 Microsoft Windows インストールに関しては、トレース ファイルは名前スペースがはいっている CIS インストールが C のようなパスの内にある場合作成されません: > Program Files > 合成ソフトウェア。SAP ライブラリは領域を容認しないし、トレースは出力 ファイルを生成しません。例がそのようなパスにある場合、Cisco はインストールパスで領域がはいっていない、debug trace ファイルを集めるためにただインストールする一時例をことを推奨します。